

本日は、ご多用の中、令和3年度 第 56 回渡島公立学校教頭会研究大会にご参加いただき、ありがとうございます。開催にあたり、主催者を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

さて、コロナ禍において子供たちの学びを止めないために、管内全ての小・中・義務教育学校において、これまでの学びに ICT を最適に組み合わせた「令和の日本型学校教育」が着実に進められているところと思います。

内閣府の HP に、これからの社会について次の記載がありました。

「これまでの情報社会 (Society 4.0) では知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題がありました。人が行う能力に限界があるため、あふれる情報から必要な情報を見つけて分析する作業が負担で、年齢や障害などによる労働や行動範囲に制約がありました。また、少子高齢化や地方の過疎化などの課題に対して様々な制約があり、十分に対応することが困難でした。Society 5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革 (イノベーション) を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。」(一部抜粋)

上記のような未来社会を創っていくためには、人間の強みである「現実の世界を理解し意味づけできる感性、倫理観」、「板挟みや想定外と向き合い調整する力、責任をもって遂行する力」が必要であり、子供たちの力を最大限に引き出す個別最適かつ協働的な学びの実現が求められています。

そのためには、まず我々教頭が先頭に立って個別最適かつ協働的な学びを実現していく必要があります。今年度も、渡島公立学校教頭会はいつでも、どこでも、迅速に情報共有し、職能向上を目指す教頭会として ZOOM 会議を継続してまいりました。おかげさまで移動時間をかけず、効果的に情報共有することができましたので、本研究大会も ZOOM 開催といたしました。(HP も随時更新中です)

本研究大会での個別最適かつ協働的な教頭の学びが、渡島の子供たちが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な希望の持てる社会の創り手になるための礎となることを切に願っております。

終わりに、本研究大会を開催するにあたり、提言資料の作成や ZOOM 会議への準備等、推進役の研究担当の皆様のご苦勞に感謝申し上げ、ご挨拶といたします。